

2024 1

# ナ イル

現代短歌ナイル

ナ  
イル

## 【今月の歌】

秋山義仁、庄野主真  
松本美貴子、橋本涼

＊＊＊

ナイルキャンパス／五代目神田伯梅

＊＊＊

11月号作品批評／宮本史一(心の花)

＊＊＊

現代文 知識ノート【3】／二方久文



# NILE CAMPUS

295

伯梅閑話——伯龍の靈?

小村井敏子（五代目神田伯梅）

妹が不思議なものを見たと言う。母親とキャンセル待ちでバス旅行に行つたとき、座席に座るとなんだか嫌な気分がした。座つていると座席に手が見えた。手だけが出たのだ。「変な手」と妹が言うと手は消えて、嫌な気配も消えた。バス旅行に行きたかったんだろうと妹は言う。また、東北の大震災のあと、街中で、すうつと消える人影を見た人だ。靈魂は、死ぬと遠距離を瞬時に移動できるという。震災のようなことで死ぬと死んだことに気付かずにさまようことがあると聞いている。そんな靈だつたのだろう。

妹が我が家に泊まつた二〇一三年七月十日の夜十時半頃のことだつた。二階の从間から出た白い人影が私の部屋に素早く入つたという。どちらの部屋も戸は閉じていた。伯龍の靈に違いないと妹は思った。講談で結ばれた伯龍・千代夫婦があの世で再会し、十七回忌が済んで、やつと私を助けに来てくれたらしい。心強いことだ。

伯龍の実の祖父は、愛する人が子を産んでもすぐに亡くなつたため、生涯妻帯せず、僧侶として、宗派のトップまで行つた方だと聞く。伯龍にもその血がつながつて、靈的なことがあつた。ちよつと祈つて、除靈のようなこともしていた。

私と結婚したあとのことだ。教員だつた私が授業をしていると、横長の楕円形の大きな伯龍の顔が教室に見えた。恋しいと思つていていたときに出でてくれたなら、嬉しいが、こちらは、夢中で授業をしているのだ。「あつちへ行け」と思つた。千代夫人が美容院に行つた留守にも、早く帰つてくることを望み、「なかなか、帰つてこないんだ」と言う伯龍だ。十六歳と一ヶ月年上の千代夫人だ。髪をカットするだけでなく、髪を染めたりするだろう。時間がかかるのはあたりまえ。それを待つのだ。私がフルタイムで働く間、まだかまだかと思つていてるに違いないと思つた。帰宅して、「念を送つたでしよう」と追及し、やめてほしいと言つた。毎日会つてゐるのだ。その後、二度と出なかつた。